東洋埠頭株式会社

東洋埠頭のDXの取り組み2.0

2026年11月
東洋埠頭株式会社

トップメッセージ

「DXの取り組み2.0」は、当社グループのあるべき姿の実現に向け、中期経営計画の達成、さらには現場の課題解決を図るために、グループ全体で進める大切な挑戦です。
この取り組みには、未来に向けて当社グループ全体をさらに成長させていきたいという、私たちの強い想いが込められています。

私たちは、この取り組みを通じて個々の強みをつなげ、新しいサービスを創り出すことを目指します。そのために、全社でノウハウを共有し、協力し合える環境を作ることが不可欠です。
従業員一人ひとりがDXを自らの課題として考え、期待やメリット、そしてそれぞれの役割を明確にすることで、グループ全体で同じ目標に向かって進んでいきたいと思っています。

具体的には、デジタル技術の活用によって生産性を向上させ、データに基づく迅速な意思決定を進めることで、お得意さまのニーズにきめ細かく応える力を高めていきます。
そして、当社グループで働くすべての人々が、より安全で働きやすい環境を整えるとともに、お得意さまへのサービス品質と提供価値の向上を目指します。
私たちは、目先の成果だけでなく、持続可能な社会への貢献も視野に入れ、未来にわたって競争力を持ち続ける強い会社を、一丸となって築いていく所存です。



代表取締役社長　原　匡史

Copyright © TOYO WHARF & WAREHOUSE CO.,LTD.ALL Right Reserved

トップメッセージ

DX2.0で、未来を創造する。

「DXの取り組み2.0」は、デジタルを活用して事業、業務プロセス、組織、人材のあり方そのものを進化させる取り組みです。私たちは、DXへの投資によって、短期的なコスト削減にとどまらず、安全・品質・生産性の向上を図ります。こうした改善をお得意さまへの提供価値の向上につなげ、持続的な成長と企業価値の向上を目指してまいります。



人と現場から、顧客価値と働き方を変える。

当社グループは、人の力を高めることをDXの基本姿勢としています。定型作業や負荷の大きい業務を見直し、従業員がより付加価値の高い仕事に取り組める働き方へと変えてまいります。また、一人ひとりがデジタル技術を使いこなし、データとAIを活用して自律的に課題を発見・解決できる環境を整えます。

課題に向き合い、成果に責任を持つ。

私たちは、従業員の声を取り入れ、パートナー企業とも連携しながら、デジタル技術の速やかな導入と現場への定着を進めます。各施策には成果指標を設定し、投資対効果を検証したうえで、効果が不十分な施策は速やかに見直します。あわせて、サイバー攻撃や情報漏えいへの対策を講じ、事業の継続とお得意さま・社会からの信頼を守ってまいります。課題と成果は適切に情報発信し、ステークホルダーとの対話を大切にしていきます。

挑戦を繰り返し、DXを進化させ続ける。

「DXの取り組み2.0」は、全社で推進してまいります。部門の垣根を越えて知見を共有し、一人ひとりの挑戦を組織全体の力につなげます。
変化を恐れず、皆様と共に、お得意さまの事業発展と社会を支える物流の未来を築いてまいります。

Copyright © TOYO WHARF & WAREHOUSE CO.,LTD.ALL Right Reserved

これまでの主なDXの取り組み

「東洋埠頭のDXの取り組み」公表時から現在までに、以下のデジタル技術を導入してまいりました。

トラック予約受付システム	・「2024年問題」への対策として導入。 ・トラック予約状況や作業内容をリアルタイムに可視化し、待機時間を大幅に短縮。 ・データに基づき、お得意さまへ正確な情報を提供。
デジタルフォワーディングシステム（貿易業務の一元管理）	・国際物流業務の効率化とお得意さまとの情報共有の円滑化を目的に導入。 ・船の動静や輸出入情報を一元管理し、業務効率化とサービス品質の向上を実現。
国際物流業務海空一体型システム	・航空輸送と海上輸送を一体管理できるシステムを導入。 ・見積書作成から輸送手配、請求・支払管理まで一つのシステムで完結。 ・業務の標準化と作業進捗の可視化を実現。航空輸送では貿易書類の電子化も推進。
在庫管理システム（基幹システム刷新）	・現場業務のデジタル化を推進する中核要素として活用。 ・他システムとのデータ連携を考慮し、業務プロセス改善/効率化を実現。 ・多様な荷主・貨物に対応できる柔軟な仕組みを構築。
東扇島DXセンター営業所	・お得意さまのサプライチェーン全体における付加価値向上に貢献することを目指す。 ・現場業務のデジタル化で得た知見を、全社の拠点へ横展開していく。 ・最新型の自動化設備を導入し、作業と保管の効率化・最適化を図る。

Copyright © TOYO WHARF & WAREHOUSE CO.,LTD.ALL Right Reserved

経営三カ年計画に基づく「DXの取り組み2.0」の位置づけ

経営三カ年計画で策定された方針と将来のありたい姿に基づき、「DXの取り組み」を見直し「DXの取り組み2.0」に更新

DX基本方針　**「デジタルイノベーションで未来を切り拓き、経営目標達成を目指します」**

経営三カ年計画で策定された方針と本書の関係

経営三カ年計画で策定されたアクション	DX中期計画テーマ
✓ 新たな収益の柱となる新規業務の稼働と、新規事業の開始に向けた準備の加速 ✓ 独自性を発揮した事業の継続・深化と、積極的な投資による継続的な成長、及び安定した利益の確保 ✓ 国際物流事業のネットワークの拡大	一貫したサービス提供実現のための情報基盤
✓ 安全及び物流品質の向上 ✓ 施設・設備の計画的な補修、更新、リニューアル ✓ デジタル化及び新技術の活用による業務プロセスの改善、効率化の継続	AI・ロボティクス活用による業務の高度化
✓ 採用活動の強化、人材の育成	ナレッジ共有、顧客情報活用、人材育成による組織力向上

上記のアクションを通じて達成を目指す、全社的な経営目標（結果指標）

- 連結営業収益400億円の達成
- EBITDA（営業利益＋減価償却費）の増加
- 財務の健全性の確保

Copyright © TOYO WHARF & WAREHOUSE CO.,LTD.ALL Right Reserved

DX中期計画テーマ

1.一貫したサービス提供実現のための情報基盤

- ■ 国際物流サービス品質の可視化
  国際物流におけるサービス品質の指標を設定し、品質状況を確認することで改善すべき点を迅速に把握し、対策を講じる。
- ■ デジタル物流プラットフォーム整備
  物流プラットフォーム連携などを活用し物流情報を連携・可視化することで顧客ニーズに迅速に応え、安定的な輸送手配を実現する。

2.AI・ロボティクス活用による業務の高度化

- ■ 書類・承認プロセスの自動化
  AI-OCRの導入と電子承認機能を拡張し、書類作成・処理工数、紙書類、承認リードタイムを削減する。
- ■ システム連携によるデータフロー強化
  システム間のAPI/データ連携を検討し、各システム連携による重複入力ゼロ化とデーター元管理を進める。
- ■ ロボット・AIによる物理作業負荷軽減、効率化
  パレタイズマシーンやAI作業計画システムなどを通じて、作業計画・物理作業の省力化と効率化を進める。
- ■ IoT・AIを活用した現場モニタリング・安全管理
  主要拠点でのAIカメラ設置の試験稼働・精度向上を通じて、ヤード・庫内状況のリモート確認と安全対策を高度化する。

3.ナレッジ共有、顧客情報活用、人材育成による組織力向上

- ■ 全業務の手順書デジタル化
  業務手順書フォーマット標準化、ナレッジ共有システム、勉強会を通じて、ナレッジ活用・横断的情報共有を定着させる。
- ■ 組織全体のデジタルリテラシー底上げ
  推奨資格奨励やデジタル教育の階層別研修への組み込みによりデジタルリテラシーを向上させる。
- ■ スキルアップへのモチベーション向上
  全社横断勉強会や社内コミュニティの活性化、タレントマネジメントシステムでのスキル可視化により、お互いに切磋琢磨する文化を醸成させる。
- ■ 顧客満足度向上
  顧客情報登録率向上、顧客満足度調査を通じて、顧客対応情報/顧客課題を可視化し、顧客理解の深化と顧客起点の提案を定着させる。

Copyright © TOYO WHARF & WAREHOUSE CO.,LTD.ALL Right Reserved

1:一貫したサービス提供実現のための情報基盤

情報基盤を通じて高品質なサービスを一貫で提供し、事業展開を加速させる。





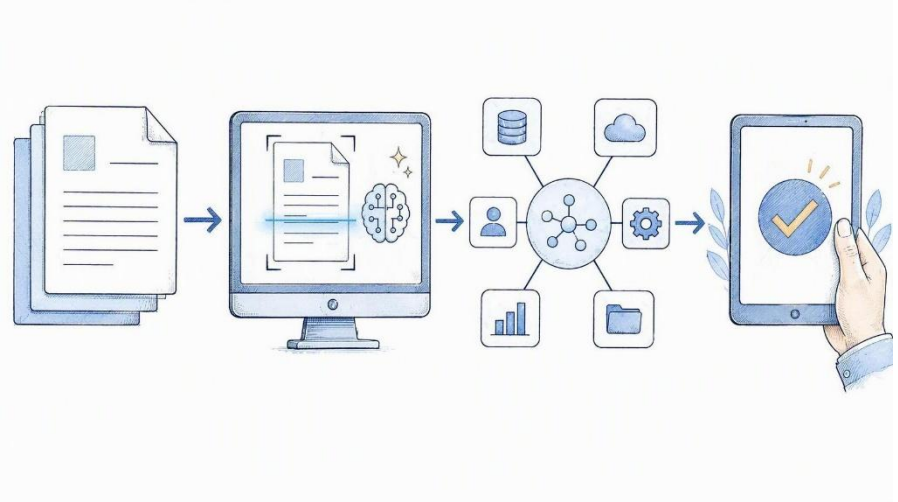
国際物流サービス品質の可視化
物流サービス品質の指標を設定し、品質情報を可視化。川上から川下まで一貫した品質水準を確保し、安定した物流サービスの提供と信頼性の向上を目指します。

物流情報の連携
物流プラットフォームと連携し、輸出入業務にかかわるすべての物流データを可視化する基盤を構築。顧客ニーズに迅速に対応し、提案機会の拡大を目指します。

Copyright © TOYO WHARF & WAREHOUSE CO.,LTD.ALL Right Reserved

2：AI・ロボティクス活用による業務の高度化

「高負荷作業」、「危険作業」をテクノロジーが軽減/防止し、効率性と安全性を高める。







事務作業の高度化
AI-OCRや電子承認機能拡張、タブレット活用による業務のデジタル化を推進。API/データ連携を進め、迅速で効率的な業務運営を実現します。



現場作業の高度化
パレタイズマシーンや無人フォークリフトなどのロボット技術を活用。ヤードや庫内でのAIカメラによる遠隔確認の検証も進め、安全性向上と身体的な負担の削減を実現します。

Copyright © TOYO WHARF & WAREHOUSE CO.,LTD.ALL Right Reserved

3：ナレッジ共有、顧客情報活用、人材育成による組織力向上

知識を共有する文化を醸成し、お互いを高め合える組織へ。



デジタルで「属人化」を解消
全社共通のデジタル業務手順書とAI技術を活用したナレッジ共有の仕組みを検討。困ったときはいつでも過去の改善事例やトラブル対応策を検索できる環境を目指します。



顧客理解の仕組み化
顧客情報プラットフォームで顧客対応に必要な情報を一元管理。顧客対応履歴や改善事例を活用し、お客様の課題に合った提案を支援します。

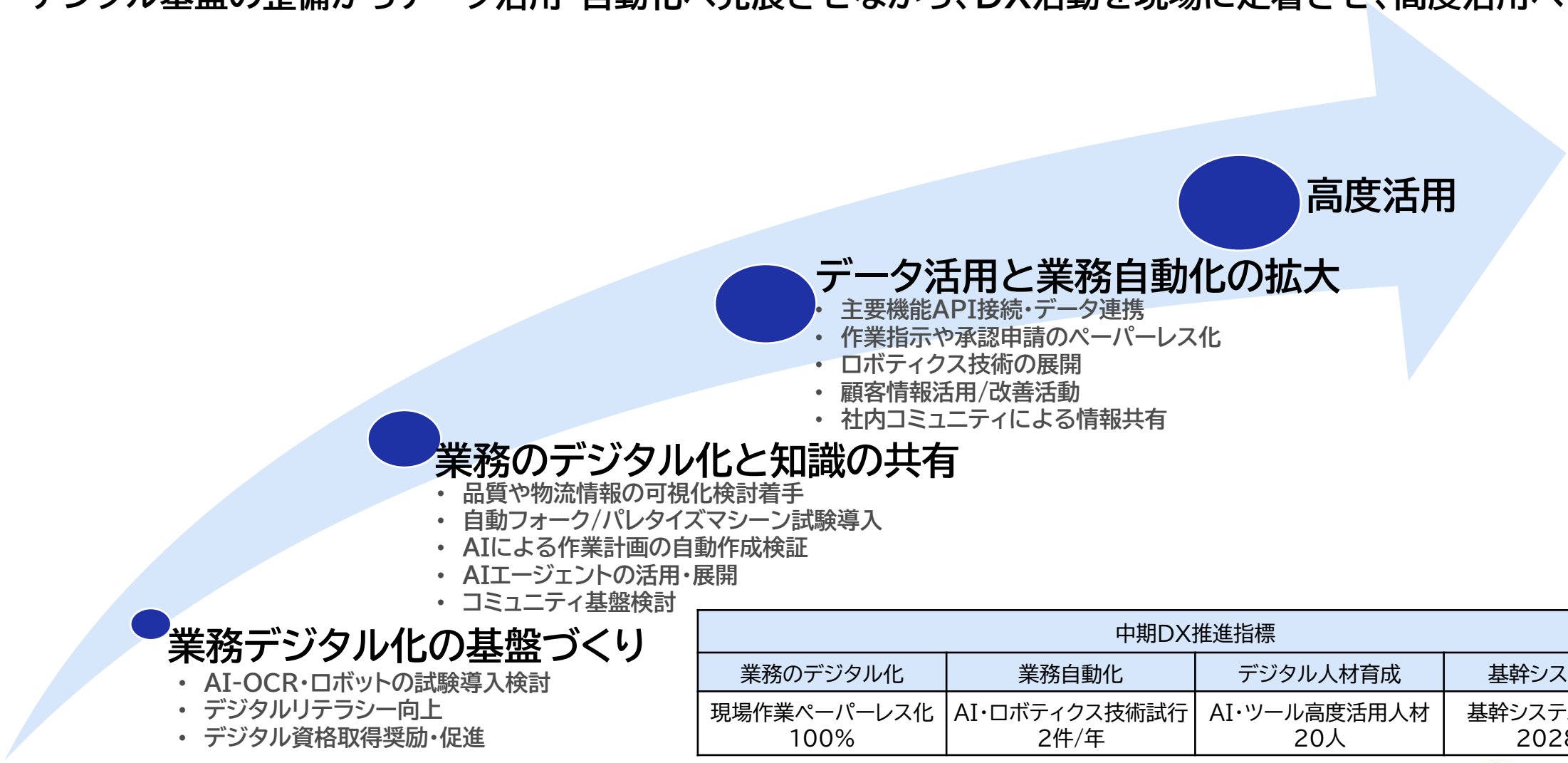


スキルアップ/人材育成
階層別デジタル教育やタレントマネジメントシステムを導入。横断勉強会やコミュニティ基盤を活用し、従業員のスキル向上、自己研鑽する環境を整備します。

Copyright © TOYO WHARF & WAREHOUSE CO.,LTD.ALL Right Reserved

DXロードマップ

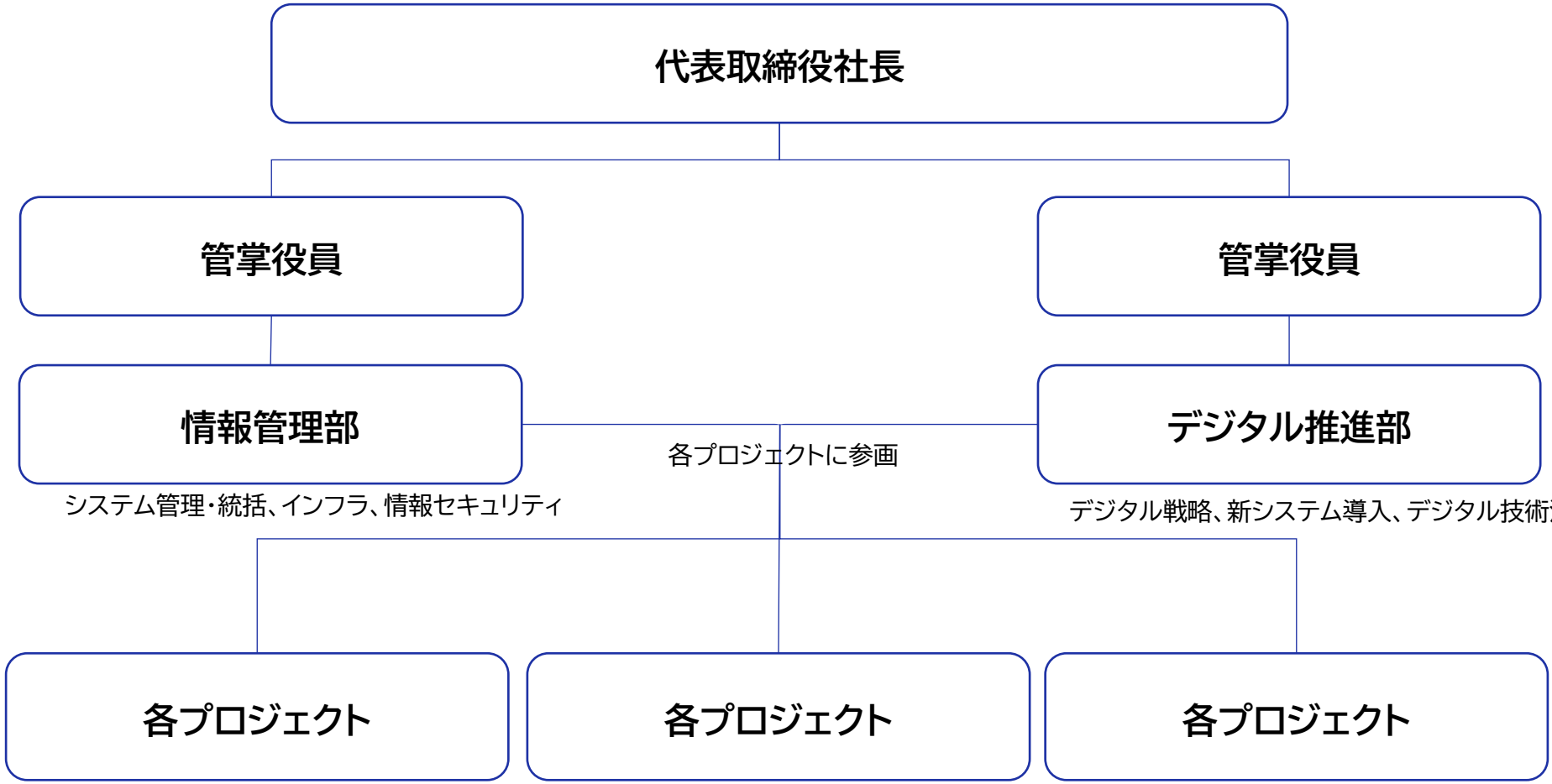
デジタル基盤の整備からデータ活用・自動化へ発展させながら、DX活動を現場に定着させ、高度活用へ



中期DX推進指標			
業務のデジタル化	業務自動化	デジタル人材育成	基幹システム刷新
現場作業ペーパーレス化 100%	AI・ロボティクス技術試行 2件/年	AI・ツール高度活用人材 20人	基幹システム刷新完了 2028年度

Copyright © TOYO WHARF & WAREHOUSE CO.,LTD.ALL Right Reserved
東洋埠頭株式会社

実行する組織体制



- 全国支店から現場業務に精通した次世代を担うメンバーが参画
- プロジェクト参画を通じ、デジタルリテラシーを向上

DX人材については、全社員のデジタルスキルの可視化、階層別研修へのデジタル教育の組み込み、DXやデジタル関連資格取得の奨励により
自己研鑽を促す体制を確立。組織全体のデジタルリテラシーの底上げに取り組んでいきます。

Copyright © TOYO WHARF & WAREHOUSE CO.,LTD.ALL Right Reserved
東洋埠頭株式会社



すべてのステークホルダーに対し、
現在以上に価値ある企業として発展し続ける

Copyright © TOYO WHARF & WAREHOUSE CO.,LTD. ALL Right Reserved